

様式 3

令和3年度 香南市幼稚園における学校評価報告書

香南市立野市東幼稚園

経営理念	【教育目標】 えがお かがやく ひがしの子
	【経営目標】 『遊びを通して健康なこころとからだを育む幼稚園』をめざす
〈子ども像〉	○明るく元気な子ども ○自分のことは自分でしようとする子ども ○思いやりのある子ども
	○人やものに自分からかかわろうとする子ども ○自分の思いを表現しようとする子ども
〈幼稚園像〉	○子どもの笑顔が輝く幼稚園 ○基本的な生活習慣を身につけ健康な子どもが育つ幼稚園
	○友達同士つながり自主性や社会性を身につける幼稚園 ○豊かな心情や知的好奇心を育てる幼稚園 ○保護者や地域から信頼される幼稚園
〈教師像〉	○幼児との信頼関係を大切にする教師 ○創意工夫して保育する教師 ○意図的計画的に環境を考える教師
	○互いに協力してチャレンジする教師 ○保育の研究・研修に努める教師

中期経営目標		短 期 経 営 目 標 (評価項目)	自 己 評 価		学校関係者評価		改 善 策 等
			達 成 状 況	評価	考 察	評価	
保育・教育活動の充実	○ 幼稚園教育要領に沿った教育活動と、幼児の発達に即した指導を展開し、生きる力の基礎となる心情・意欲及び態度を育てる。	① 幼児の興味関心や発達を探りながら保育を展開する	子どもの興味関心や一人一人の発達、そして楽しんでいることを基に保育内容のすり合わせを行い週日案を作成していったことで、学年に応じた経験を重ねることができた。しかし、週日案の作成及び記録ができない時があった。終礼では、日々子どもの様子を共有し、明日の遊びを予測し合い、必要な手立てを考え共有していくことができた。	B	子どもの興味関心や発達段階に合わせて、一人一人の子どもの課題や特性を見取りながら週日案等を作成し保育を展開している。今後は、明日につながる記録となるよう改良していくとよい。	B	職員間の話し合いの場をもつことはしっかりとできていたので引き続き取り組んでいく。また、週日案の作成及び記録ができる様式を検討し、カリキュラムのPDCAサイクルに努める。
		② 幼児一人一人が遊び込めるための環境づくり	一人一人の育ちを見極め、子どもに必要な経験が積み重ねられるように物的環境を整えていった。初めて見たり触れたりするものに魅力を感じることで、子どもの興味関心がくすぐられ夢中になって遊ぶ姿が見られた。	B	職員一人一人が意識して環境について考え取り組んでいた。特に自ら見つけた自然物で遊ぶ経験は、発見した喜びや楽しさにつながった。	B	引き続き学期に1回教材研究を行うと共に、一人一人の育ちや経験をもとに意図的な環境構成につなげられるよう週日案検討会を行い、職員間で連携を取り保育内容を充実させていく。
		③ 自分の思いを言葉で伝えようとする幼児の育成	自分の気持ちよりも友達に合わせようとしていた姿から、3学期には自分の気持ちを伝えようとする子どもが50%を超えてきた。また、どのように伝えと分かってもらえるか考えながら伝えようとする姿も見られるようになりつつある。	B	自分の思いや考えを相手に伝えようとする子どもが育ってきていると感じる。引き続き取り組みを重ね、分からないことや困っていることなどを周りの人に伝えられるように努めてほしい。	B	教師との信頼関係のもと、自分の思いを伝える経験の積み重ねを大切にしていこう。また、絵本等を通して言葉の豊かさにつながる保育を年間を通して計画的に行う。
職員の育成・資質向上や運営	○ 園務分掌等が適切に機能し、子どもたちのために教職員がお互いに協働する風通しのよい幼稚園を構築する。	① 年間計画に沿った避難訓練を行う中で、職員一人一人が自ら考え行動し、連携を取りながら安全に避難できる取り組みを行う。	各学年子どもへの指示はしっかりとできているが、園全体を見据えた職員の連携は十分でなかった。子ども自ら考え行動する力を身に付けるために、新たに教材を活用した取り組みを行ったことは成果であった。	C	訓練のたびに自分の役割に責任をもって取り組んでいる。昨今は異常気象が多いので、引き続き安全対策や防災対策に取り組んでほしい。	B	園の現状や課題から必要な訓練を想定し年間計画を修正していく。振り返りの時間を大切にする中で、一人一人が評価反省をし、具体的な改善策を考え合うなど、協働的に取り組みをすすめていく。
		② 園内研修を通じて自己研鑽し、学びを保育に生かす。	5回の公開保育と1回の親育ち支援事例研修を行った。研修の中で分かったことや学んだことを自分のこととして捉え、学びの75%以上保育に生かした。また、オンデマンド研修が増えたことで、全職員が同じ研修を受講する機会にも恵まれ学びを共有しあうことができた。	A	園内研修を計画的に実施しており、多忙な中において月に2回以上取り組めたことは質の向上につながっている。今後も日々の実践にいかせられるよう継続した研究に励んでほしい。	A	引き続きそれぞれのキャリアステージに応じた研修や、園内外の研究保育に参加し、自己研鑽を重ねていく。そこでの学びを共有する時間確保に努め、一つ一つの研修を充実したものにしていこう。
地域に開かれた園づくり	○ 保護者や地域に開かれた幼稚園づくりに努め、信頼される幼稚園を確立する。	① 子どもの育ちや経験が分かる便りを発行し、子育ての楽しさを感じてもらえるようにする。	子どもの生活の様子や遊びの内容を伝えるだけでなく、どのような経験を重ねているのか写真を入れながら教師の意図が伝わるように工夫して作成したが、発刊にタイムラグが生じることもあった。	B	保護者から園を信頼した好意的な意見が多く、便りだけでなく日頃の活動を参観したり、子どもの話を聞いたりして信頼された園づくりが推進されている。	B	ドキュメントは翌日に、便りは1週間以内に発行していく。便りの内容は、行事の報告に偏らないように年齢に応じた育ちや経験、そして、教師の意図や思いを伝えられる便りの工夫に努める。
		② 散歩などを通して、地域とつながる活動を行う。	コロナ禍で地域の方々とはつながる機会が限られる中、機会を見計らって散歩に出かけることができた。直接関わるできない時は、プレゼントを作るなど心でつながるような取り組みを工夫して行ったことで、50%以上の子どもが地域に関心をもつことができた。	B	保護者アンケート結果の数値的にみれば「Aそう思う」が他と比べると少し気になるが、コロナ禍で地域などとはつながる機会に制限がかかる中で、散歩を通して地域の人やものに気付いたり知ったりする経験になっていた。引き続き地域を感じられる取組や教師の援助を工夫してほしい。	B	感染状況をみながら、これまで続けてきた地域との交流が途絶えることのないよう工夫した取り組みを行っていく。そのために園側から積極的に働きかけをし、地域の方々や連携を大切に努めていく。

【評価基準】 A：十分満足 B：おおむね満足 C：もう少し努力すべき D：大いに努力が必要